

詩篇119篇65-72節 「苦しみを受ける幸い」

1A 私たちにとって良い事 65-66

2A 苦しみによって知る慈しみ 67-68

3A 高ぶる心 69-70

4A 苦しみによって知る教え 71-72

本文

聖書通読の学びは、ついに聖書の中で最も長い章である、詩編 119 篇に今日から入ります。とても長い箇所なので、二つに分割して読んでいきたいと思いますが、午後は1節から88節まで読みたいと思います。今朝は、交読文で読んだ65-72節に注目します。

ここで際だっている言葉は、「苦しんだことが幸いだった」という言葉です。苦しみについて私たちは学んでいくことができます。今日は、棕櫚の聖日です。棕櫚とは、ナツメヤシのことで、イエス様がエルサレムに入城される時に、群衆が主の乗られるろばの子の下に枝を敷いた時、ナツメヤシの木の枝も使われたことでしょう。そして五日後の金曜日(ある人は木曜日と言いますが)私たちの主が、十字架に付けられ死なれました。そして次の日曜日、明け方によみがえられます。したがって私たちが今、主が受けられる苦しみを想うためにも、この箇所を学ぶのは良い事だと思います。

苦しみが幸いであったという言葉には、違和感があることでしょう。誰も瞬間的に、苦しまないことが幸いであると思うからです。しかし詩篇のこの箇所は、苦しみのことを語っているのに、「良い」という言葉が繰り返されて使われています。ヘブル語で「良い」は、「トブ」と言います。実は他の訳でもトブが使われています。65節はそのままですね「良くしてくださいました」とあります。66節は、「良い分別」のところがトブです。そして68節、「いつくしみ」と訳されているところもトブです。それから71節、「しあわせ」でしたとなっているところは、実はトブです。さらに72節、「まさる」ものとなっているところは、さらに「トブ」であると書いてあります。このように、苦しみを通して良いもので満ちあふれているのです。

トブという言葉は、聖書では実に創世記の始まりの時に使われています。「神はその光をよしと見られた。(1:4)」と書かれているところです。そして六日目に人も造り、すべてを造られたら、「見よ。それは非常によかった。(1:31)」とあります。ですから、良き物はすべて神に属しています。ユダヤ教では、この言葉は神にしか使われません。つまり、この箇所は苦しみを受けることによって、実は神ご自身に触れることができる、神の良きものを知ることができるという約束なのです。

1A 私たちにとって良い事 65-66

119:65 主よ。あなたは、みことばのとおり、あなたのしもべに良くしてくださいました。119:66 よ

い分別と知識を私に教えてください。私はあなたの仰せを信じていますから。

ここには、主がご自分の僕に良くしてくださったと書いてあります。御言葉の通りにとありますが、主は私たち、神に仕える者に必ず良くしてくださいます。しかし、何をもって良いことなのかを知ることは大事です。「よい分別と知識を私に教えてください。」と言っています。そうです、主の分別しておられること、主の知識こそが良いものであります。言い換えれば、主の御心こそが私たちに良いものです。

私たちは、何が良いことで、そうではないかを自分の分別と知識で推し量ろうとします。自分の人生は、自分こそが知識を持っており、何が良いか悪いかを判断できていると思っています。しかし、私たちはこれから一年先、何をやっているか知ることもできない存在です。一年先どころか、一日先も読みが外れることがありますね。伝道者フランクリン・グラハム氏は、この前墜落した飛行機事故について、このように語っていました。「(搭乗していた)150人は、だれもその時が自分にとっての最後の時間になると思っていなかっただろう。イエスは言われた。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。(ヨハネ 11:25)」あなたの人生が今日、終わりを迎えるとしたら、救い主に会う備えはできているのか？あなたは、イエス・キリストを主として信じ、あなたの罪を赦していただくよう求めなければいけない。…」¹その時に死ぬと分かっていたら、また他の計画を立てていたかもしれません。自分自身の判断は良くないのです。

しかし、神はすべての分別と知識を持っておられます。バビロンに捕え移されたユダヤ人に、主はすばらしい約束を与えられました。「エレミヤ 29:11 わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。…主の御告げ。…それはわざわざではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。」詩篇 119 篇 73 節には、「あなたの御手が私を造り、私を形造りました。どうか私に、悟りを与えてください。」とあります。私を造られた方こそが、私に対する幸せな道を知っておられます。私が良いと思っていることよりも、神が良いとみなしておられることを知ることが、私にとって良いことです。

今、引用したエレミヤ書 29 章 11 節で思い出すことがあります。ソウル・サーファーという映画です。ハワイのサーファー、ベサニー・ハミルトンさんが 13 歳の時にサメに片腕を喰いちぎられました。彼女は熱心なクリスチャンでしたが、信仰が試されました。けれども、この御言葉の約束が与えられていたのです。そして、彼女はこの試練と苦しみは神の与えられた良い計画なのだと悟りました。今、インタビューではこう答えています。「あなたがもう一度、生まれ変わることができると思います。両腕で生まれたいですか。」彼女は、「いいえ」と答えました。神の御心のほうが、自分の判断よりもはるかに優れているのです。

¹ <https://www.facebook.com/FranklinGraham/posts/892825837440265>

2A 苦しみによって知る慈しみ 67-68

119:67 苦しみに会う前には、私はあやまちを犯しました。しかし今は、あなたのことばを守ります。
119:68 あなたはいつくしみ深くあられ、いつくしみを施されます。どうか、あなたのおきてを私に教えてください。

詩篇の著者は、人生で痛い経験をしたようです。苦しみに会って初めて、自分が過ちに迷い込んでいたことを悟りました。その痛みを通して、主の御言葉の中にいなければいけないことを悟りました。そして、主の慈しみを知ったようです。

私たちは、なぜ苦しむのかについてその理由や目的を考えてみたいと思います。この世界に苦しみがあるのは、第一に、最初の人アダムが罪を犯したからです。「創世 3:17 あなたが、妻の声に聞き従い、食べてはならないとわたしが命じておいた木から食べたので、土地は、あなたのゆえにのろわれてしまった。あなたは、一生、苦しんで食を得なければならない。」この地上に生きている限り、その罪の贖いが行われない限り、私たちは苦しみから遠ざかることはありません。呪われてしまった、と主が言われている中には、病があり、そして死があります。誰もが死ぬように定められています。

ですから私たちは、苦しみがある時に、この土地が贖われることを待ち望み、心の中で呻いているのです。しかし、主は十字架で私たちの罪を贖ってください、そして再び来られる時に、この世界をも贖ってください。自然災害で被害を受けた方々のことを想う時に、また先に述べた飛行機事故などで死者が出たことを思う時に、私たちは「主イエスよ、来てください。」という祈りを捧げるのです。それは、アダムが犯した罪によって世界が呪われたけれども、キリストの義の行いによって、この世界が贖われるからです。

しかし主は、このような不完全な世界の中で、キリストによって選んだ者たちを練り清めるという働きをしてくださいます。これは第二の理由、というよりも目的です。「ローマ 5:3-5 そればかりではなく、患難さえも喜んでいきます。それは、患難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。」私たちは神の愛を、キリストによって知りました。しかし、その愛が深まるには、その愛がどれだけの深さを持ち、高さ、広さ、長さを持っているかを知るには、患難が必要なのです。それは患難が私たちの内に忍耐を生み出し、そして練られた品性を生み出し、そして練られた品性こそが、希望を生み出すからです。

私が思い出すのは、ペルシヤの王妃エステルです。彼女の生い立ちについて、エルテル記の著者はこう書いています。「2:7 彼女には父も母もいなかったからである。このおとめは、姿も顔だちも美しかった。彼女の父と母が死んだとき、モルデカイは彼女を引き取って自分の娘としたのであ

る。」彼女は美貌を持っていました。しかし、幼い時に両親を失っていました。美貌だけ持っていたら、もしかしたら彼女は中身のない人になっていたかもしれません。私は、美人が中身がないという話をしているのではなく、美人の人が、その見た目の人々がその人に接するので、人格形成をする機会が少なくなるという話をしています。けれども、父と母を失っていました。その苦しみの中で、彼女の品性は練られていました。ついに、ユダヤ民族の最大の危機であった、民族浄化において、ペルシヤ王に直訴してユダヤの民を救うことができたのです。そうした希望を、彼女は練り清められた品性の中で保つことができていました。

そして私たちが苦しみに会う第三の目的は、「神の栄光を現すため」であります。生まれつきの盲人について、イエス様はこう言われました。「ヨハネ 9:3 この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現われるためです。」この盲人が盲目だったのは、その目が開き、開くだけでなく、イエスが神の御子であることを知って、この方を礼拝するためでした。

生まれつき障害を持って生まれてくる人たちがいます。そこには、キリストにある大きな目的があります。このような人々こそ、神からの特別な使命を託されています。そのような人たちがいることは、私たちにとって必要なのです。先々週の土曜日、3月21日は「世界ダウン症の日」と定められていたそうです。ある教会指導者がこう発言しましたが、私は深くアメンと言いました。「キリスト教の世界観は、ダウン症の子の顔がファッション誌表紙にある写真加工されたモデルより、果てしなく美しいと主張する。」²そうです、終わりの日には遺伝子障害もなくなります。しかし、主は障害さえも用いて、ご自分の栄光を現しておられるのです。

そして第四の苦しみの目的は、「主の愛による訓練」であります。自分が主の道から逸れていつている時に、主はご自身に私たちを引き寄せるため、私たちを正す目的で苦しみを与えられることがあります。67節は、この目的について書かれています。これについては、私たちは痛い方法で学ぶ必要はないのです。主に従順であれば、痛みを伴わず平安の中に留まっていることができます。けれども、それでも私たちは迷うことがあります。とても痛いところを通るでしょう。しかし、主は一時的に悲しくても、永遠の命という実を結ばせるために、その苦しみをお許しになります。「ヘブル 12:11 すべての懲らしめは、そのときは喜ばしいものではなく、かえって悲しく思われるものですが、後になると、これによって訓練された人々に平安な義の実を結ばせます。」

愛というのは、いろいろな形で表現されます。愛するからこそ、激しい裁きの言葉を語ったのはエレミヤでした。悔い改めなければ滅びるという言葉語りしました。そして、もう遅すぎた時は、バビロンに服従しなさいと説きました。そしてそれを聞いている人々は、「なんと酷いことを言うのだ！」と非難しました。しかし、滅びから免れるための言葉であり、それは愛から出ていたのです。同じように主ご自身のパリサイ派に対する、「忌まわしいものだ」という言葉も、頑なで、いつまでも

²<https://www.facebook.com/thegospelcoalition/photos/a.10151536827367723.1073741830.31365402722/10152579015242723/?type=1&pnref=story>

反抗している彼らに対する、実は愛の言葉でありました。

そして、愛は時に「何も語らない」ということによって、現われる場合があります。放蕩息子のことを思い出してください。彼は我に帰って、父の家まで戻る時まで、父が待っていることを知りませんでした。彼が自分で立ち返るのを、父は待っていました。それまでは、沈黙状態でした。同じように、語りかけない、そっとしておくというところに、愛が現われることがあります。そして、このような愛は、特に激しい反発を受けます。愛されている人は、愛している人が自分を憎んでいると勘違いすることもあります。イエス様の愛は、パリサイ人を怒らせ、憎ませました。しかし、どこかの時点で私たちは、憎んでいるから語っているのではなく、自分が神に、そして兄弟姉妹に愛されているのだということを悟る必要があります。そして悔い改めるのです。

3A 高ぶる心 69-70

119:69 高ぶる者どもは、私を偽りで塗り固めました。私は心を尽くして、あなたの戒めを守ります。119:70 彼らの心は脂肪のように鈍感です。しかし、私は、あなたのみおしえを喜んでいます。

苦しみにある幸いは、人を謙虚にさせます。しかし、苦しめない心は人を高ぶらせます。人々の痛みや苦しみについて、鈍感にさせます。そして、自分は何様かのように思い違いをして、うぬぼれることさえします。したがって、神によってへりくだりを与えられるというのは、幸いです。

ネブカデネザルのことを思い出します。彼は大いなるバビロンの栄華を誇りました。彼の治世の後期に、バビロンは敵どもをすべて従わせて、大きな帝国として安定していました。それで、彼は自分の宮殿の屋上を歩いていて、こう言ったのです。「王はこう言っていた。「ダニエル 4:30 この大バビロンは、私の権力によって、王の家とするために、また、私の威光を輝かすために、私が建てたものではないか。」それで彼は、獣のようになってしまいました。七年間、牛のように草を食べていました。髪の毛も伸び放題、爪も伸びたままです。それから理想が戻って、彼はすぐに主をほめたたえたのです。ですから、苦しみがないと人の心は高ぶりますが、苦しみによって自分を低くすることができます。

4A 苦しみによって知る教え 71-72

119:71 苦しみに会ったことは、私にとってしあわせでした。私はそれであなたのおきてを学びました。119:72 あなたの御口のおしえは、私にとって幾千の金銀にまさるものです。

最後の要点です。苦しみによって、私たちは神の掟を学ぶことができます。神の言葉は、ここには「幾千の金銀にまさるもの」とあります。これはその通りです、イエス様の語られることは、天と地が過ぎ去っても、それでも残っています。そしてイエス様の語られる言葉は、命を与えます。ですから朽ち行く金銀よりもはるかに優る者です。ところが、そこまで御言葉を慕うようになるのは、苦しみを受けるからです。

元ヤクザで今は牧師をしている進藤さんは、ヤクザをしても、妻に離婚させられて、覚醒剤を使っていたのでヤクザからも辞めさせられた時に、自分はもうこれで終わりだと思ったそうです。それで聖書を食らいつくように読んだそうです。そして、エゼキエル書に出てくる言葉、「18:23 わたしは悪者の死を喜ぶだろうか。・・神である主の御告げ。・・彼がその態度を悔い改めて、生きることを喜ばないだろうか。」に触れられて、新生体験をしました。苦しみを受けたから、御言葉をそれだけ尊いとみなすことができました。

けれども、御言葉ということだけでなく、ここでの御言葉は、「ことばとなって、私たちの間に住まわれた」というイエス・キリストご自身であると受けとめることができます。苦しみに会うことは良いことであるのは、キリストご自身を知ることができるようになることです。キリストが苦しみを受けられたのですから、私たちが苦しみを受ける時に、キリストがその苦しみも担われたのだということを悟り、それで、主が通られた道を共に辿ることができるのです。

迫害を受けていた信者たちに、使徒ペテロが手紙を書いて励ましています。「1ペテロ 2:20-23 罪を犯したために打ちたたかれて、それを耐え忍んだからといって、何の誉れになるでしょう。けれども、善を行なっていて苦しみを受け、それを耐え忍ぶとしたら、それは、神に喜ばれることです。あなたがたが召されたのは、実にそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。」私たちが主のゆえに迫害を受ける時には、この時こそ幸いな時です。私たちの罪のために死んでくださったそのキリストが、自分の内に御霊によって住んでおられることを、最もはっきりと知ることができます。迫害を受ける人、殉教する人が、その死に際して、ますます思いを強くして主をほめたたえているのは、そのためです。主ご自身の足跡に付いていけるので、そこに喜びがあります。

困難な中に、私たちはむしろ義への飢え渴きが起こります。そして御霊が降り注がれます。そしてキリストがそこに現われてくださいます。ですから、キリスト者にある光は世が暗くなればなるほど、ますます輝きます。神の御国は、この世に不法がはびこるとそれだけ、一気に推進します。それは暗闇の力が働いていたところで、キリストが永遠の救いの御業を成し遂げられたからです。聖霊は、キリストの苦しみと共に働きます。

そして、苦しみを受けることが良いのは、他に苦しんでいる人々に慰めを与えることができるようになることです。「2コリント 1:6 もし私たちが苦しみに会うなら、それはあなたがたの慰めと救いのためです。もし私たちが慰めを受けるなら、それもあなたがたの慰めのため、その慰めは、私たちが受けている苦難と同じ苦難に耐え抜く力をあなたがたに与えるのです。」苦しみを受けるからこそ、神がその苦しみに共にいてくださり慰めを与えられることを知ります。そして、その慰めをもって、苦しんでいる人々を慰めることができます。主が同じところを通った人々を、自分に送って

くださる時は幸いです。この人は自分の悲しみといっしょにすることができる、ということを確認できるからです。

キリストは悲しみの人でした。病を知っている方でした。十字架への道を歩まれ、人々から罵られ、あざけられた方でした。それは私たちの罪のため、その罪の赦しのためだけでなく、罪によって世界に広まってしまった、あらゆる苦しみをご自分の身に受けられるためです。イエスが苦しまれたのですから、この方が私たちの苦しみに慰めを与えることはできないことは決してありません。そして、この慰めをもって、皆さん一人一人が他者を慰める使者になることができるのです。そしてみなさんが受けた苦しみは決して無駄にはなりません。それが、他の人々を慰める大きな賜物なのです。御霊の賜物というと、私たちは何かできる能力であると考えますが、そうです確かに、慰める能力が御霊によって与えられます。